

②1 萩原町川西北部土地改良区

～「もっとも大切な地域の財産北部用水」 萩原町川西北部土地改良区 ～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験)



川西北部用水の生き物調査



川西北部用水の水路トンネル探検



尾崎小学校 出前授業

活動のきっかけ

平成10年度の幹線水路改修に伴い、ビオトープの設置など、地域住民の憩い場としての水環境施設整備が契機となり、農地の多面的機能の保全・再生を目的とした活動を展開。

活動の概要

◇地区の子供たちへ、川西北部ふる里守り隊、萩原町丹精米生産組合と一緒に「水田魚道」付近での生き物観察のほか、小学校への出前授業、水路トンネルの施設探検等を実施。

◇平成14年度に水路の一部改修で設置された約2kmの管理道沿いに、ケヤキ、トチなどの苗約800本、翌年ヤマザクラ、ナンテン、ハナノキなどの苗木500本を植樹し景観を整備。

◇平成25年度から人と野生生物とを隔てる緩衝地帯(バッファゾーン)として里山を帯状に整備、花木・広葉樹の植樹及び半自然草地を設置し草刈り等の管理を実施。

活動の成果

◇活動により、自治会、婦人会、子供会、教育機関、市、県との連携が構築された。

◇将来を担う子どもたちの、土地改良施設への関心や愛着が高まり、先祖代々守ってきた施設を継承することを目的とした活動の展開に期待。

◇活動を通じて住民の地域の自然資源を守る意識と理解が高まり、自治会が協力的となって積極的な活動により、土地改良施設の機能保全や地域資源の保全強化に繋がった。

◇植栽事業で用水路沿いが花いっぱいになり、散策道として地元住民や来訪者に親しまれており景観整備と水路への愛着が育っている。

問合せ先

〒509-2507 岐阜県下呂市萩原町野上512

TEL:0576-54-1333 FAX:0576-54-1333

②羽島用水土地改良区

～ こどもとあゆむ羽島用水 ～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験)



マス釣り大会



出前授業



ホタルの幼虫・カワニナの放流

活動のきっかけ

地域の都市化が進み、住民の農業に関する意識が希薄になる中で、農業・農業用水が地域に果たす役割について理解を深めることを目的に、子どもをターゲットとした広報活動を実施。

活動の概要

◇パイプライン化された羽島用水の上部を利用して「せせらぎ水路」を整備し、地域住民を対象としたウォーキングイベントにおいて、パンフレットやパネルを用いて地域の農業用施設を紹介するとともに、ウォークラリーやセンパラ等の生き物紹介も実施。

◇地域の小学校からの要請で、羽島用水の歴史や役割について出前授業を実施。

◇農地・水保全管理活動を行う「^{おぐまちふう}小熊知風の里作りネットワーク協議会」が実施する水路の美化活動に併せて、用水路をマス釣りやホタルの幼虫放流の場に提供。

活動の成果

◇都市化が進む中、せせらぎ水路等の自然と調和した景観が、地域への愛着をより高める効果を発揮。

◇小学生への出前授業等において、羽島用水の歴史、土地改良区の仕事、農業用施設の果たす役割等を説明し、地域の農業を開発してきた先人への理解が深まった。また、児童が家庭で出前授業の話をする事により、農業水利施設が果たす役割への理解が地域に広まった。

◇マス釣り大会やホタルの幼虫放流など、農業用水路を活用したイベントに協力することで、農業用水が地域の自然環境を育んでいることについて地域住民に認識。

問合せ先

〒501-6074 岐阜県羽島郡笠松町新町42

TEL:058-388-2626 FAX:058-387-7274

岐阜県輪之内町

②徳川将軍家御膳米生産組合

～輪中から発信する輪之内のブランド米～

◆伝統・継承 ◆「食」の提供・活用 ◆子ども(教育・体験)



徳川将軍家御膳米生産組合のメンバー



お田植え式の様子



収穫祭の様子

活動のきっかけ

岐阜県外にほとんど流通のない品種の「ハツシモ」のブランド化とPR、輪中地帯の伝統的な米作りの後世への伝承を目指し、町内の各営農組合が集まり平成25年に生産組合を設立。

活動の概要

- ◇5月に「お田植え式」9月に「収穫祭」を開催し、手植えや手刈りの作業、昔の農機具使用体験で、地域の子供達に輪中の米作りの伝統継承。徳川将軍家御膳米の試食を実施。
- ◇関係機関が協力し、地下水を利用した輪之内町産ハツシモを「徳川将軍家御膳米」としてブランド化し、加工品も開発。
- ◇徳川将軍家御膳米PRのために、展示会、商談会、物産展などに積極的に参加。

活動の成果

- ◇農業体験には毎回約80名が参加し、伝統農法の継承と都市部からの来町者の増加に寄与。
- ◇徳川将軍家御膳米、それを活用した加工品は展示会等で好評で、生産者のモチベーションが向上し、生産面積は当初の31haから、平成29年は110haに拡大。
- ◇「田植え式」や「収穫祭」の行事、徳川将軍家御膳米の給食への提供、小学校の総合学習の時間等での御膳米の学習で、未来を担う子供達の食・農業への関心が高まる。
- ◇徳川将軍家御膳米の加工品として、平成26年に「徳川将軍家御膳酒」、27年に「輪中パッカン」、28年に徳川将軍家御膳米と輪之内町産黒豆を使用した「御膳米黒豆ごはん」を発売。輪之内町および徳川将軍家御膳米の知名度と経済的効向上に一層の期待。

問合せ先

〒503-0292 岐阜県安八郡輪之内町四郷2530-1
TEL:0584-69-3111 FAX:0584-69-3119

②株式会社キサラエフアールカンパニーズ

東海農政局選定

～ 食の地域資源を活用した町づくり、人づくり！ ～

◆ジビエ ◆6次産業化 ◆鳥獣被害防止



地域の若い狩猟者へ捕獲技術や場所を提供



ぎふジビエ解体人材育成プログラム



岐阜県初！ジビエ給食

ジビエを使った
食肉加工メニュー

活動のきっかけ

揖斐川町では獣害による農作物被害が増加し被害防止の要望が高まる中、地域住民による侵入防止柵設置作業への支援、わな猟免許や銃猟免許の取得の推進等により、平成25年から鳥獣被害対策事業を本格化。

活動の概要

- ◇岐阜大学と連携して、ジビエ活用に適した捕獲技術の普及と若年層をターゲットにした捕獲者の人材を育成し、また、ぎふジビエガイドラインに基づく解体処理の人材も育成。
- ◇平成28年にレストランと食肉製品加工所を開業し、ジビエメニュー開発やレシピを監修。
- ◇ジビエ料理を食しながらの獣害対策成果報告会開催など、食を通じた地域との交流を実施。
- ◇飲食店のオーナーやシェフを招き、捕獲、運搬、解体処理等のジビエの現状視察を実施。

活動の成果

- ◇常時、捕獲及び解体処理が出来る体制(解体処理施設設置)を構築し新たな雇用を創出。
- ◇地域ぐるみの侵入防止柵と捕獲体制の構築(狩猟免許取得、捕獲補助者育成)で獣害が減少。
- ◇メニューやレシピの提供で、ジビエの新たなコンセプトとイメージを作り付加価値を創出。
- ◇県下初の試みとして、町内の学校給食に3,000食分の鹿肉カレーを提供。
- ◇シェフ等の現地視察により食肉への安心感と付加価値への理解が深まり、飲食店でのジビエ需要の拡大を牽引。

問合せ先

〒501-1303 岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲長瀬字岡田1836-1

TEL:0585-55-2753 FAX:0585-56-3117

②⑤柿とバラの町農地・水・環境保全組織

～ 柿とバラの町の住民一体での農村環境保全 ～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験) ◆定住・移住



地域住民共同での水路の泥上げ作業



標語優秀作品の掲示看板



地元中学生インターンシップ

活動のきっかけ

農業従事者の高齢化と混住化に伴い、農業・農村の崩壊が懸念される中、農地・農村環境の保全と集落機能の強化、地域の活性化を目指し、「農地・水・環境保全向上対策」に取り組むこととし、平成19年に町内全体をエリアとする広域活動組織を設立して活動を開始。

活動の概要

- ◇町全域で水路の泥上げ、法面の草刈等を実施。組織として草刈機等を準備することにより、地域活動への非農家の積極的な参加が促進、農村環境を守る意識が向上。
- ◇用水路への土砂流入を防ぐ防草シートとカバープランツを組み合わせた法面管理を実施。
- ◇自然環境について学ぶ「ホタルの勉強会」、町の活性化を目指すNPO法人や農事組合法人と連携した「かかし祭り」、「田んぼアート」等に取り組む。
- ◇子供を対象に環境保全に関する標語・ポスターコンクールや農業体験実習等を実施。

活動の成果

- ◇住民みんなで地域活動を行うことで、地域コミュニティが醸成され、かかし祭りや田んぼアートなど新たな活動が発案され、元気で魅力あるまちづくりにつながっている。
- ◇カバープランツの植栽は用水路管理の省力化に加え、美しい景観を形成。女性や子どもが楽しめる活動として定着し、地域活動への参加人数の増加に繋がる。
- ◇活動を通じて、住民の農村環境に対する意識や地元への愛着が高まり、将来を担う地域の子供たちの、農業・農村・ふるさとを大切にする意識の向上につながっている。

問合せ先

〒501-0592 岐阜県揖斐郡大野町大字大野80番地
TEL:0585-32-3541 FAX:0585-32-1519

②株式会社佐見とうふ豆の力

～ まめ（元気）な女たちがまめ（豆）で地域を盛り上げる ～

◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化 ◆女性の活躍



地区内小学生の豆腐づくりの様子



佐見とうふ豆の力の従業員



カフェ開店当時の提供メニュー

活動のきっかけ

過疎化・高齢化が進み、地区に伝わる豆腐づくりが途絶えてしまう危機感から、地域の集落営農組合で生産する大豆の加工への取組が検討され、営農組合の女性グループを中心に、平成20年4月「佐見大豆加工研究会」が発足し豆腐の生産を開始し、平成22年4月に法人化。

活動の概要

◇地区内の小学校の子供たちに地域の特産物、加工に関心をもってもらう取組を継続的に行っている。また、自社製品を給食の食材として提供するとともに、総合学習の中で豆腐や油揚げの製造工程の説明や、おからを使ったおからボールづくり体験などを実施。

◇6次産業化に取り組み、豆腐、油揚げ、湯葉等を生産し地区内外で販売。

◇現在従業員の8名は全て女性で、地区内での女性の活躍の先駆けとなった。

活動の成果

◇町内の集落営農組合と購入契約を結び、町内産の大豆を使用することで、営農組合の安定した収入につながり、活動は地区の農業生産継続・発展に寄与。

◇地域外の消費者を白川町内に誘客する施設として、店舗に隣接する形でカフェをオープン。豆腐を使ったスイーツや、できたての揚げなど魅力的なメニューを提供。

◇当該団体の活躍により、地区内の女性農業者が新たに事業を始めるなど、女性参画の先駆けとして活動が地区内に波及。

問合せ先

〒509-1192 岐阜県加茂郡白川町上佐見456

TEL:0574-76-2688 FAX:0574-76-2688